

ワンツーワークス 演劇ワークショップ#9

「台詞を言う・台詞を聞く」

—ホントは楽しい会話術—

講師/古城十忍

インストラクター/奥村洋治・関谷美香子・山下夕佳
アシスタント・記録/日暮一成・増田和・原田佳世子・小山広寿

日時/2014年8月9日(土)・10日(日) 13時30分～20時30分

会場/芸能花伝舎S1-A

参加者/19名(女性11名・男性8名)

記録・レポート/山下夕佳

台風11号、今晚か明日の朝にも上陸！？という予報ですが、とりあえず曇り空は「まだ大丈夫だよ」と言ってくれているような感じ。嵐が来る前に頑張って、すぐにでも帰宅しよう！！と……会場を見渡すと、ムムム？本日はちょっと男臭い感じがするぞ？嵐が来るけど宴会か？……のちに「商工会のみなさん」と呼ばれ続けた人生の先輩男性陣を含む19名で、今回は「台詞を言う・聞く」ということをほりさげてみよう！

1日目

■ウォーミングアップ

【ストレッチ】 二人組になって相手を自分の背中に乗せて揺する。お

互いの手は、組まない。乗る方はダランと重力に任せて。乗せる方は中腰になり、パートナーが自分の背中に仰向けに乗ったら、その太ももを手で押さえながら、自分の腰の位置にパートナーのお尻が来るようにスライドさせて、ゆっくりと自分の膝を伸ばす。「初対面なので、相手を信頼して……というのも無理かもしれませんが、ま、乗る方は、信頼して怖がらないで相手に身を任せてくださいねー！」と古城氏。みなさん、お近くの人とペアになって早速やってみます。「結構怖いねえ」「あー、ずれていくー。力抜いてくださいー」などの声があちらこちらから聞こえるが、初対面なのに、なんだか和気あいあいとした楽しげなムードであります。これならこのワークショップは楽しい二日間になりそうぞ。



一人が座って、パートナーは体の各部位を伸ばしてあげる。あぐらをかいて真上に引き上げる。片方の脚は伸ばしたまま横へ倒して体側や腿の内側を伸ばす。前屈……二人組で行うと自力ではなかなか伸ばしにくい部位も伸ばすことができる。その分、痛い。(笑)「めちゃくちゃ汗出る!」「ぐえ〜!!」……ストレッチのポイントは、とにかくゆっくりと。伸びている部位を感じながら。しっかりと呼吸を繰り返す。呼吸が止まると筋肉も硬くなります。



4人組になり、一人は両足を肩幅に開き、両手を左右に開く。肩が上がらないように。手の先を自分の肩の高さに。一人は右手を、一人は左手を持って引っ張る。残った一人がチェック。体の中心軸が下がっていないか、真横から見て一直線のラインにすべての部位（頭、首、肩、左右に伸ばした手、胸、腰、足）がすっぽりと収まっているか。「右肩、上がってます」「お尻が歪んでます」「腹が出てる！」「それはしょうがないです」なんて会話をしながら各チーム、伸ばし、伸ばされてます。



↑左右、前後、真上……しっかり両足踏ん張って、サポートのメンバーに手を引っ張られます。本人はあくまでも中心軸を意識して、体を上に上に引き上げている感覚。手を引っ張るメンバーは結構な力を入れて引っ張ってOK。「ギブギブ！」って言わせるくらい引っ張っていいですよー！

←「商工会チーム」(笑)。この4人組は、平均年齢50歳くらいかしら？男性ばかりのチーム。肩が上がります。頑張れ奥村商工会長！！

【瞬時にポーズを決める】 右手を真上に、左手を真横に。中心軸はに真っ直ぐのまま、左足は腿から膝までを床と平行まで上げる。(膝からつま先までは90度で下に)。手を叩いたら瞬時に手の左右、足の左右を入れ替える。ポーズが決まるとき、一気に息を吐く。繰り返す。足は行進になります。一瞬でポーズが決るか、体のどこにもブレがないかを二人組になってチェック。



横一列になって同じことをやります。古城氏の叩く手の合図で一斉に左右の手足が入れ替わる。一瞬ですよ、みなさん！右手が上の時は左手は真横ですよー。後ろではありませんよー（笑）。脳が考えたことを一瞬で体に伝達させて思い通りのポーズに決めるのは、結構難しいものです。外ではセミが鳴いている……汗だくになってきた受講生の方々。まだ始まったばかりです！頑張りましょう！(^ ^)！



「商工会の皆さん！北朝鮮のように！ちゃんと止まってください！夏祭りの相談はあとですよー」

「喜び組！綺麗に！美しく！」

よくわからん古城氏の応援？檄？が飛ぶ。老いも若きも汗だくになりながら前進あるのみ。「1回1回止めるんですよ！きちんと前を見て！“気を付け”の姿勢を通して！息吐いて！！」



■呼吸・発声

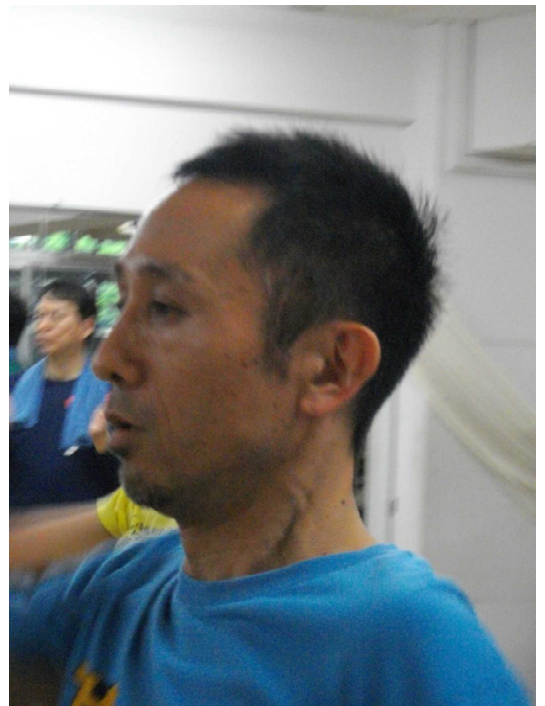
【歩行の呼吸】 ワンツーワークスで日々の訓練として行っている呼吸法。「歩行の呼吸」。体の中心軸をまっすぐに引き上げて、片足を蹴り出しながら前進する。

「1×1」「1×2」「1×4」「1×8」……その逆もあり、これを繰り返す。「1×1」は1カウントで片足を蹴り上げ、瞬時に固定する。この時息を吸う。次の1カウントで固定させた足を下ろす。この時息を吐く。（詳しくはワンツーワークス・ワークショップ#7をご参照あれ！）ほかに「2×2」「4×4」……などもあるが、蹴り上げはいずれも1カウント。残りのカウントは止まったまま息を吸い続ける。足を下ろしながら息を吐くときは等カウントでゆっくりと。鏡に映る自分の姿勢を各々見ながら歩行の呼吸を繰り返す。「軸は真っ直ぐですか?」「足はもっと速くきめて!」「手の力は抜いて体側に下ろしておいてください」「グラグラしない!」「足を下ろす時に一緒に軸が下がらないように気を付けて! しっかり鏡の自分を見てください」

【脱力ジャンプ発声・腕振りおろし発声】 全身の力を抜いて小さくジャンプ。着地した瞬間に声を出す。自分の体重が落ちるのを感じてその感覚に見合った声を出す。ドスンドスンという着地に見合った声……大きな塊を吐き出すような発声になるのかな。次に両足を肩幅に開いて両手を伸ばし、肩の高さまで前方に上げる（この時に息を吸う）。重力に任せて両手を体側まで下ろす。この時に声を出す。これも体の感覚に見合った発声。長くゆっくり吐き出すような声の出し方かな。この2つの発声法を交互に、ア行から鼻濁音まで2行ずつ繰り返す。（こちらも詳細は#7参照で）

———10分休憩!(^)!———

顔を動かしま〜す（笑）。古城氏の合図で顔のパーツ（眉毛・目・鼻・頬・口）すべてを「右耳の方に全部寄せ」ます。「左耳に寄せます」「上に」「下に」「全部真ん中に」「一気に全部開いて」。顔の筋肉も、普段自分が使っている部分しか動かしていないので、これをやると、顔の表情が動かしやすくなるし、滑舌も格段に良くなります。「一気に全部開く」時には舌も突き出すと、言葉も明瞭になります。



【一行交代滑舌】 顔の筋肉がほぐれたところで一行交代滑舌発声。二人一組で立って向かい合う。「あ・え・い・う・え・お・あ・お」を一人ずつ交互に言います。言葉を発するときのアタックを強く。リズムを一定に。

スローモーションを加えます。途端に難しくなるぞ。体はゆっくりと止まることなくスローモーションで動き続ける。同時に口は一定の速いリズムで交互に発声し続ける。ゆっくりと座りながらあぐらをかく。2秒静止ののち立ち上がる。2秒静止して再びあぐら……を繰り返しながらの一行交替滑舌。相手の動きに合わせて口は口で言葉を発し続ける。

「俳優は同時にいろいろなところをコントロールし続けなければなりません。体は体のリズム、声は声。二つを同時にコントロールするという訓練です」と、古城氏のお言葉。二人で鏡に向かってお互いの動きを鏡越しに視野に入れながら**スローモーション十一行滑舌**。あぐらが辛いチームは正座にかえてもいいです。……つつーか、そういう問題じゃないよね。「難しいよー！」という悲鳴があちこちで。スローモーションをやるということ、大きな声で相手と交互に発声すること、横を見ずに相手のスローモーションの速度に合わせて（視線はあくまでも鏡に映る自分を捉えていなければならない）歩く・座る・立つ・歩く。間違いなく難しいです。





「はい聞いてー！」と古城氏の突然のストップ。「体にばかり気を取られて、発声が適当になってますよー。一音一音が伸びて、『あーえーいー……』みたいになってますよー。100%の瞬発力で一音一音、アタックを強く、しっかり音を切ってください！」

「スローモーションは軸を引っ張り上げながら。歩行は踵から足の親指にかけて床を踏む。腰が止まらないよう

に！最大のポイントは1か所も止まっているところがないようにすること。上半身下半身バラバラにならないように！片方の脚を前に出す時には反対の脚はもう踵が浮き始めます。そうするとおのずと腰を送り出すことになるので、前進が止まることはありません。つまり、片足の前半分で全体重を支えている時間が結構長いです。手の振りも前に出すのと同じ幅で後ろにも引くこと。ちゃんとひかないとナンバになっちゃいますよ〜！」いやいやそんなにいっぺんには無理ですがな（笑）

「はい。そんなに一朝一夕にはできませんよねー、でもポイントは少しでも押さえておくとか何かの役に立つかもしれませんからねー！」……何かって？みなさん、うちの劇団に入りますか？ウフフ！

【一音連続・一音反復】 5人で輪になって一音連続発声。一音連続は、さきほど二人でやったのを5人で回す。「あえいうえおあお」をリズムカルに一人一音ずつ言いながら鼻濁音まで。次に一音反復。一人が「あ」と言ったら、言った本人を含む5人で「あ」と繰り返す。仕組みとしては一人が言う→全員が言う。の繰り返し。5人組だとすると、自分が言うのは「あ・あ」「○・え」「○・い」「○・う」「○・え」「お・お」「○・あ」「○・お」……と続くわけだっ！！わかるかなあ～？

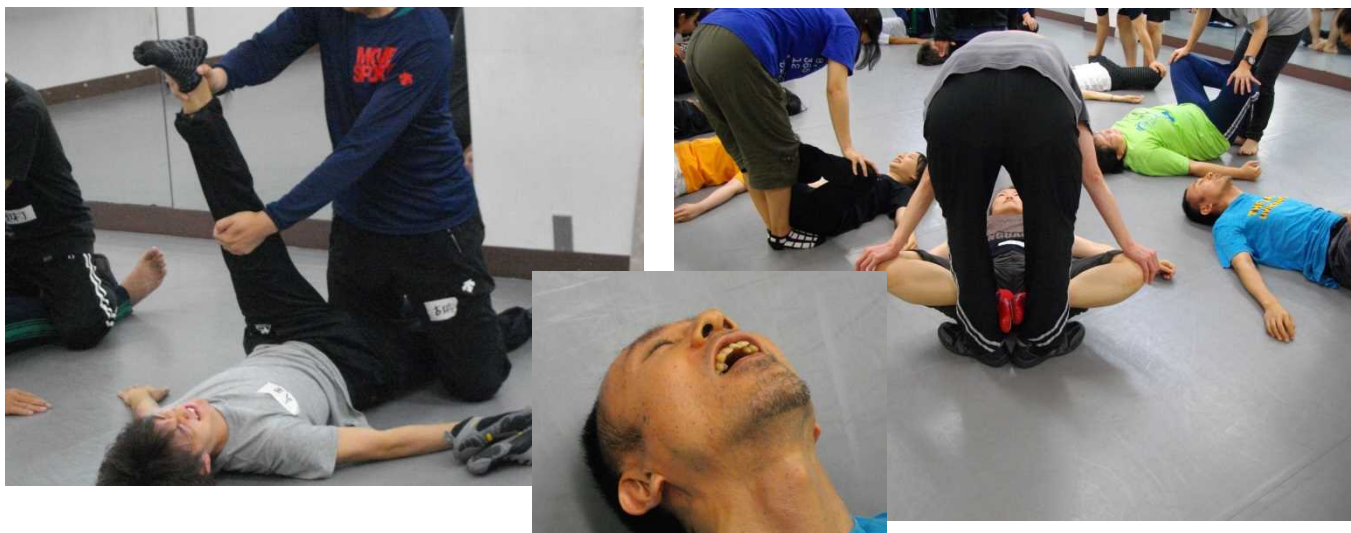
——大休憩 45分! (^ ^)! 飯だあ ♪ ♪——



休憩時間にもかかわらず熱心にアドバイスをする奥村大先生。鏡で自分の目を見ながらも隣の相手と呼吸を合わせるにはどこに神経を配ればいいのか？みたいなことをおっしゃっているのだ。さすがお芝居大好き奥村大先生！もう外は暗いよ、洋ちゃん……ごはんにしよう。

【軽くほぐす】 ご飯は美味しかったですか？本当に初対面とは思えないほど和気あいあいとした休憩時間でした。みんなでテーブル出して……みたいなね ♪ さてさて……夏の暑いさなかを目いっぱい動いて声も出して……と、少しお疲れでしょうから、再び軽く体をほぐしましょう。

二人一組になって一人は床に寝そべる。相方さんは自重を掛けながら体を押さえる。足をゆっくりと延ばしてあげる。「ぐえー！！」「むっちゃ痛えー！！」との叫び声の正体は……商工会の面々（笑）。頑張れ！！



■重心の上げ・下げ（「あめんぼのうた」を使っ

『あめんぼのうた』で会話をします。

まず奥村大先生と、関谷女史が前に出て、見本をご覧にいます。

「奥村さんは、まず関谷を責めて下さい。で、関谷は思い当たる節があります。責め方は『おいおいお前さあ……』という重心が下がった怒り方でもいいし、『ふざけんな！コラァ！』っていう上の重心でもいいです。関谷の方は『なんでー！？』って言いたいなら上でいいし、『しょぼぼ〜ん』ってなるなら下に行けばいいです」。二人からの質問、「上か下しかない？」。古城氏の答え、「上か下しかありません、真ん中はないです。だから、極端な人格になります」

なかなか難しそうです（笑）。『あめんぼのうた』と、『外郎売り』はワンツーワークスでは定番中の定番で、よく使います。この二つは、具体的な言葉が散りばめられてはいるけれども、実際の日常会話とはかけ離れているので、こういう重心の上げ下げや、歩行しながら会話する……みたいなときに非常に使いやすい。会話の速度や声の高低をランダムに変化させやすいのです。

さて、ご兩人ですが……「上か下しかない」というのが難しいよね。実際の言葉の意味とは違うとはいえ感情が伴っているから、相手の語気なんかを感じると、下がっていた重心が上がり始めて、その途中の重心のまま、台詞を口にしてしまうということになっていく。するってーと、「下から上にせりあがるような重心」みたいなよくわからない重心の位置になる。感情のフットワークの速さがポイントになりそうですね。ふむふむ。偉そうでしょ？てへへ、言うだけならね（笑）

次！3人組になって、今のケンカに仲裁人が入る。仲裁人も重心は上か下しかない。手は自由に使っているが、足は固定。踏み替えたり立ち位置を変えるのはナシ→これは重心の上げ下げをわかりやすくするため。足が動いてしまうと体が際限なくフリーになるので重心のありどころが本人にも、周りにもわかりにくくなる。ワンツーワークスの訓練では「両足固定」をよく使う。

ためしに女性一人、男性二人が前に出てやってみた。すぐさま古城ストロップ！！「はっきりやってー！！『お前のここが許せないんだよ！』みたいに始まったとするでしょ？いや、今のも責めてるんだか何だかさっぱりわかりませんでしたけどね。そしたらすかさず文句を言い返すでも、仲裁役の人はなだめに入るでもいいからすぐに受けて入って下さい。ダラダラ聞いてない！そしたらまたそれを受けるんです。『いやあ、



そういうけどね』という下がった重心でもいいし、『うるさい！黙れ！』みたいなすごく上がった重心でもいいし、3人が受け合って極端な重心でやり取りしてください。はっきりと！上か下！自分にわからせるためにとにかく極端にやってくれ！中途半端な演技をしない！はい、もう一回！」

頑張ってください！皆さん！別に古城さんは怒っていません。“ドS演出家”ですから、大丈夫ですよ。これが普通なんです(^.^)

■テキストを使って……『止まらない子供たちが轢かれていく』

「今まで重心の上げ下げや中心軸などをやってきましたが、今度は感情重視でいいです。そのかわり、必ず相手に勝つ。叩き潰す。とにかく勝ち続けます。いいですね」

一人の女子生徒が学級裁判にかけられた。裁判後の教室。裁判にかけられた女子生徒と、クラスメイトの女子生徒一人が言い合いをする場面。

「なんで私が袋叩きに合わなきゃいけないの！」「当然の報いでしょ、あなたが犯人なのは紛れもない事実なんだから」「こんなみんなから暴力を受けるいわれはないよ！」「学級裁判で決まったことなんだからしょうがないでしょ？」「しょうがない！？あんなクズみたいな学級裁判をあなたは支持するわけ？」

(綾門優季節/作 『止まらない子供たちが轢かれていく』より)

女子生徒二人のケンカ台詞の応酬だっ！相手を攻め続ける、あるいははぐらかす台詞合戦はまだまだ続く。もちろん戯曲なのでフィクションなんだが、こわー……。これを、さらに「絶対に相手を叩き潰す」という大前提でやり取りする。古城さんは「感情重視でいい」とおっしゃいましたが、これは重心のありどころが半端なさそうだぜ。まずは、わが劇団のケンカ番長、関谷美香子女史 vs 可憐な現役女子高生の戦い。女子高生ちゃん……が、がんばって～～。

「弁解にもなってないよ」「弁解する気はないけど。事実を述べたまでよ」「私の復讐心、舐めない方がいいからね、絶対号泣させてみせるから。あなたのことを！」「どうやって？」「あたしのお父さん、怒ると手が付けられないんだからね！」「結局、ひとまかせなんだ！」「他人じゃな

いから。肉親だから！お父さんの怒りは私の怒りなんだ」

……面白い台詞だね。なんか、女子ってこういうコト言いそう(笑)。さて、番長と女子高生ちゃんの戦いはというと……すかさず女子高生ちゃんに、古城レフェリーから審判が下った。

「負けてるよ。なんで負けるかわかる？ 迫力がないから。ガン！ って言おうが、ぼそぼそって言おうが、迫力がないから負けるのよ。で、なんで迫力がないかって言うと、相手が言ってる時、自分が聞いている時に、たまってるものがないからなのよ。これは即興じゃないから、セリフがない間は黙ってないといけないじゃない。だから聞いている時に「ふーん、へーえ！ そう！ そうなんだ！！」っていうふうにしてドンドンためていかないと自分の台詞の時に迫力が出ないのよ。聞いている時に感情が止まって台詞の時に急にいこうとしても、それは無理なのよ、ちゃんとエンジンふかしておかないと」とのこと。後半、口調がオネエみたいだけど、表記したらそうなのだけです。(笑)

お次は男性チーム。

仮の王様ハジメ君と、影の王様ミカド君の会話。ハジメ君はミカド君のパシリ？ なのか……？

「ごめん！ほんとにごめん！何もかもぶちまけるしかないんだよ。ミカド君の言うことに完璧に従って行動していただけたから僕に罪はないんだって言い逃れしないとどうにも収まりがつかないみたいだ」「裏切るのか」「裏切りたくないからこうして謝っているんでしょう？裏切るつもりならミカド君に報告しないまま、ベラベラあることないこと喋っちゃえばいいわけだからさあ」「俺に報告しようとしまいとベラベラ喋るわけだろう？それを裏切りって呼ぶんじゃないの！？」「事実じゃないことは喋らないよ」「共犯だろ？」「僕はただ司会進行を引き受けただけで」「その司会進行に学級裁判のすべてがつまってんじゃないか！その空気も、下される罰も、ハジメの胸一つで決まるわけだろ？」「ミカド君がなんと言ったって、もう先生が総動員で動き始めてる事实は変わらないよ」「俺も正直に告白する……ように見せかけて、あることないことベラベラ喋ってやるからな」「それは裏切りじゃないか！」「裏切ったのはそっちが先だろ！裏切りの裏切りは表」

こちらは奥村大先生と若き俳優くんと戦いです。奥村大先生は台詞回しがめちゃくちゃ速いので、まず、若き俳優君はスピードについていけない。こうなると奥村大先生は、普段あんなに優しいのに……イジワル洋治になって、ぐんぐんスピードを上げ、相手を翻弄して楽しみ始めますよー。ついて行くんだっ！若き俳優君！

「野球の盗塁と一緒に。ピッチャーと、リズムを合わせなきゃ」古城レフェリーの声。若き俳優君はキョトン。「え？意味わかんない？自分が台詞を言う時になってブレス（息継ぎ）してるんだが、もう呼吸は作っておかないと。ベースを踏んで、ピッチャーが投げてから走るんじゃない間に合わないでしょ？それと一緒に。相手が喋ってる時に『腹立つなーコイツ！』と思ってればそういうリズムを作っておけばいいし、『強がってるけどほんとにビビってるんじゃないの？』と思えばそういうリズムを作っておけばいいの。そしたら自分の台詞の時にはそのリズムでスタートできるから。自分の台詞で気持ち作ってたんじゃない絶対間に合わないよ」。若き俳優君、「はあ！わかりました！」すごく納得したようです。若さって素敵☆納得した表情も

爽やかで輝いてるわ。

何組かのチームに分かれて同時にやります。女同士、男同士のバトル。極端な感情を行ったり来たり、絶対に相手を叩き潰すケンカ台詞の応酬合戦。会場はすごい騒ぎです。



「相手が喋ってる時に気持ちを作っておく、聞いている時に感情を動かしておく、それが大事！！」「必ず勝ち続けて！」「相手を下に見続けて！」古城氏が檄を飛ばす。ケンカは盛り上がる。ここが西新宿でよかった。閑静な住宅街だったらお巡りさんが来そうだよ(笑)

各チームに一人ずつ投入されたうちのメンバーのアドバイス、古城レフェリーのダメ出しもすごい大声だよ。普段大きな声など極力出さない

省エネケンカ番長（実力者は無駄な力は使わないのだ）関谷女史のアドバイスにもおのずと熱が入る「ちょっと台詞に節が付いてるの！自分の中だけでやっちゃうとそうなりがちなんだけど、相手に当てる、相手に届けるっていうことを頑張ってやってみて！」

受講生の皆さんはこんなに長時間、相手に大声で台詞をぶつけないよね。顔が真っ赤になってます。体が硬くなってきました。大声を出していても顔や体に力を入れ過ぎちゃ危険だよー！！燃費の悪い、力技アメ車女優（大きな音を出してガソリン使いまくるイメージでよくそう言われます、トホホ）の私はそれで結構喉を傷める(=_=)コントロール、コントロール。



さて……本日夏の蒸し暑いさなか、昼間は体を酷使し、夜は喉を酷使しました。みなさま大変お疲れ様でした！！軽くクールダウンのストレッチをいたしまして、1日目、終了でございます。また明日～～。

2 日 目



昨日は大変お疲れ様でした！
疲れは抜けましたか？ハハハ。

ガチガチに固まってしまった体が悲鳴を上げている模様です。本日も頑張りましょうね。

■呼吸・発声

【呼吸】 肘を曲げて左右の腕は元気よく振る。膝は極力曲げずに、踵をつくたびに息を吐く。歯の隙間から「スー、スー、スー……」と意識的に息を抜く。昨日や

ったスローモーションと同様、中心軸をまっすぐに引き上げたまま、腰を体の中心と考え、たえず腰を前に前に押し出しながら歩行する。

【発声】 今やった呼吸で声を出す。踵をつくたびに「あ・え・い・う・え・お・あ・お」と発声。横隔膜を最大限に動かして。一語一語のアタックを強く。中心軸を引き上げて。手を振って、リズムカルに歩きながら。だんだん早く。「体と声がバラバラになってきてるよ！」たしかに壊れたロボットのようになってきてる人が何人か(笑)。商工会チームはゼーゼー言い始めております。外では蟬がジージー鳴いております。

■共同体①『外郎売り』

5人**共同体**。5人は一人。あたかも一人が菓の口上を述べているように『外郎売り』の台詞を語り継ぐ。5人は客席に向かって、常にお客さんに菓の効能をアピールし続ける。隣の共演者を直接には見ずに、ムードを感じ取り、声を聞き、ポーズを合わせ…と、大変やることが多い。あらゆることにアンテナを張らなければいけない。私たちワンツーワークス…いや、一跡二跳時代から綿々と受け継がれた匠の技である。嘘。出来ればそりゃ匠の技だが、何年、何十年かかっても難しすぎて、今のところ私の記憶では奥村洋治以外の匠を見たことがない。つつつても、複数人で一人を演じるわけだから、匠が一人……だけでは本当の匠の技にはお目にかかれないわけだな。追いつけ追い越せ奥村洋治！？

※「**共同体**」のルールについては、**ワークショップ#8**をご覧くださいませ。



「さあ、耳を働かせてやって下さい。まず聞く力。そして合わせる力。奥村さんからスタートしてください。堤真一で」古城氏の謎のフリで5人共同の始まり始まり。

「せ、拙者……親方と申すは……」

場内いきなりの大爆笑。匠奥村の、あまりにも似ていない堤真一により、ほかの4人も一気にリラックスモード。さすがは匠、身を削ってほかの者たちの気持ちを解きほぐす技！……だと素敵なんだけどね(笑)。真剣に似てなかったんだよね(T_T)



「次の人が入って来るまで話し続けるんですよ！」「朗読になってる！客席に話しかけて！」「〇〇さん！体を合わせてー！」「△△さ～ん、寝てんの～？」「早いわっ！なんで一人の人間なのに台詞が被るの！」

本日の古城氏もドS全開です。しかし皆さんもうすっかり慣れたご様子。古城氏のダメ出しが飛ぶたびに会場はなぜか大爆笑。ダメ出し受けてる本人たちも「はいっ！」「はいっ！」と素早いお返事。

■共同体②『弔辞』

今度は3人**共同体**。しかもテキストは『弔辞』。『外郎売り』はいわばセールストークなので、大笑いしたり驚かせたり、手を変え品を変えてお客様を喜ばせながら話しかける。いろいろと細かいルールはあるが、基本的には楽しませる、楽しむという気持ちをベースに語り継ぐので、うまくいけば、やってる方も見ている方も楽しい。が、『弔辞』は逆。故人のために話すということは、違う規制がかかる。故人のために生前の様子を語る。故人とのかかわり方、遺族への配慮……などなど、俳優本人の設定の仕方によって語り口調は変わってくるだろう。しかし、3人**共同体**なので、語りだした一人にほかの二人は瞬時に合わせなければならない。号泣から始まれば号泣。啜り泣きなら啜り泣き。思い出に浸り始めればそのムードを3人で出す。菓の口上よりもスピードは遅くなるだろうから、その分、3人の出すムード、声の高さ、スイッチングの正確さが重要になる。

弔辞

タカちゃん、突然の訃報に言葉ありません。

常日頃、あれほど健康に気を使い、体力にも自信を持っておられたのに、今こうしてタカちゃんの遺影を見つめることになるとは、とても信じられません。

旭通り町内会で野球同好の仲間を募り、眠い目をこすりながら早朝のグラウンドに集合し、日常の憂さも忘れ、無我夢中で白球を追いかけて、ともに汗を流しましたネ。

タカちゃんが豪快なスイングでホームランを放ったときの、あの満面の笑み、忘れません。タカちゃんがヒットになりそうなフライを華麗な横っ飛びでダイレクト・キャッチしたときの、あの得意げな顔、今でもはっきり脳裏に焼き付いています。

タカちゃんは我が「旭ドルフィンズ」の不動のライト、不動の7番でした。

タカちゃん、あなたがなくなったグラウンドは寂しいです。がらん、としてます。ですが、あなたの思いを受け継ぎ、野球を続けていきます。

これからは天国のスペシャル・ベンチで缶ビールとメガホンを手に、私たちのチームの活躍を見守ってください。

タカちゃん、さようなら。安らかに天から見守っていてください。

旭通り町内会「旭ドルフィンズ」キャプテン内田幸夫

(古城十忍作/『弔辞②』より)

「平静な感情だったら、ある程度は人の声も聴けると思うんですよ。でも、特定の感情を持った時にも、ちゃんと聞けますか？ってことです。みんなが辛いとか、悲しいとかのベースを持っていて、その気持ちのまま、さっきやったような**共同体**をやってみてほしいんです」……難しいですね。ある程度の強い感情があるのに、他人の感情を経由しないといけない。具体的な感情があればあるほど、この**共同体**という訓練は難しいです。

——大休憩！！ごはん～～☆——



さて、ラストは二日間の集大成です。ま、いろいろなテキストもやりましたが、要するに、俳優にはあらゆるコントロール能力が必要だよということで……（そんな簡単なまとめでいいのか？）3人共同体、5人共同体をやりまくってこの二日間のワークショップの集大成と相成りました。

でもでも……このラストスパートの**共同体**は椅子に座ってやるだけじゃなくてフリーで動き回るというヤツ。うっひょー！これはまた大変なんだ。

■『外郎売り』 共同体・フリー



ワンツーワークスでは、普段は共同体を3人でやっています。椅子に座ってやる時もそうだが、特にフリーで動き回るとなると、人数が多くなればなるほどスペースの

使い方が難しくなる。**ポジショニング**と呼んでいるが、これが本当に難しい。とにかく、視線は常に客席で、共演者の動きやムードは視界に入ってくるものと、共演者が出してくる空気みたいなことで感じ取りながら、喋りは流れるように滞ることなく、お互いを共有し、自分の直前の人の語り口調を拡大コピーし、体も常に、3人同じムードになっていなければならない。

「フリーで動いていい」となると自分がどこに行けば、どこで語れば効果的なのか？一人が台詞を言っているときに、あとの二人はどこにいれば話している一人の狙い通りの構図になるのか？そもそもその狙いは受け取れているのか？思惑通りに動いているのか？っていうか、お客さんはシラケていない？退屈そう

な目でこちらをを見ている？「ひっこめ〜！」なんて思ってるんじゃないかしら？なんて思いながら走って見たらぶつかりました。ちゃんちゃん。てなことが次から次へと押し寄せて……これができたらマジで匠。

共同体を、このワークショップで初めてやった方もたくさんいらっしゃいましたが、逆にみなさんは思い切りがよく、失敗してもションボリせずに（私たちは長年やりすぎて、すぐションボリしちゃうんです…

…）、始終笑顔で果敢にチャレンジしてくださっていました。私たちは、普段古城さんから「ノロい！蠅がとまる！」などと罵倒され、速く速くと思うあまりに、肝心の台詞の意味が疎かになってしまうことが多々ありますが、参加者の方の中には、とても丁寧に台詞をお話しになる、ゆったりとしたリズムを持つ方もいて……劇団員にとっては、その人の口調を拡大コピーすることが実は思いのほか難しかったり……新しいチャレンジ精神がむくむくと湧いて来て楽しかったし、意義のある時間がたくさん持てました。

みなさん、本当に二日間、ご苦勞様でした(^o^)またお会いできる日を、私たちは心よりお待ちしております。みなさまにもそう思って頂けたら嬉しいなー。二度と会いたくないなんて言わないで〜。



編集後記 やはりノリのよい参加者のみなさまだった！当然のここのように懇親会になだれ込み、乾杯乾杯で大盛り上がり。この日がお誕生日の方がいたりして、お店からはワインのサービスも♪おめでとう！そしてお疲れ様でした！
ゆか